またまた都知事の醜態

写真は朝日新聞 5 月 21 日朝刊。リードから―2 時間 15 分で、「第三者」という言葉を発した回数は 40 回以上。20 日の会見で東京都の舛添要一知事は、前回 13 日の会見から一転、ほとんど笑みも浮かべず、繰り返し頭を下げ続けた。しかし、疑惑についての具体的な説明はなく、都民の批判は高まっている。

舛添氏、「第三者」発言40回
政治資金問題 具体的な説明なく
車・似顔絵まんじゅう 疑惑次々

毎日新聞では「第三者」発言 60 回と書いていたようだが、とにかく自分のことを自分で説明できないわけだ。確かテレビでは「よく精査する」と繰り返していたが。これ以上、「舛添問題」について書く気にもなれない。いずれ近いうちに、都民の信頼が得られない、などと言って辞任するのだろうか。それとも往生際が悪く、知事の座にしつこく居座るのか。参院選を前に、早くも都知事選の行方、候補者も話題になる。

それにしても、都知事の醜態が続く。他の府県でも、問題の多い知事も少なくないが。石原慎太郎知事は 2011 年に再選を果たしたが、翌 12 年に衆院選出馬を理由に任期 1 年で辞職。週に 2〜3 回しか登庁せず、豪華海外旅行を繰り返すなど、都政「私物化」に批判も高まっていた。石原が後継指名したのが、猪瀬直樹である。空前の得票で当選した猪瀬都知事も任期 1 年余りで、徳洲会からの 5000 万円「裏金」問題で辞任に追い込まれる。そして、今度は舛添問題に都政は揺れ動いている。

ここでは枡添よりも、猪瀬について述べたい。彼は信州大学人文学部経済学科の 1 年先輩にあたる。私の大学時代に大きな影響を与えた人物だ。世話になった良き先輩ではない。彼は大学生活を混乱させた張本人だ。彼は「信大全学共闘会議」（全共闘）議長であり、わが人文学部キャンパス（県の森）を長期間にわたり封鎖した。キャンパス内で講義が受けられず、公民館などで「自主ゼミ」などを行った。とにかく手荒く、彼らに追い回されたこともある。地元紙なども大きく報じた封鎖解除により、猪瀬らは逃げ足早く立ち去った。その後、しばらくすると彼は「作家」として華々しくデビューし、テレビコマーシャルにも登場する。東京都副知事になり、石原に見込まれ「後継」に。東京五輪誘致「決定」時の安倍首相らとの写真を思い出す。五輪「手柄」もそこそこに辞職に追い込まれる。ほとぼりが冷めるとさっと「復帰」する。その変わり身の早さは、大学時代から変わっていないようだ。

（2016 年 5 月 25 日）